

手足のしびれや痛み、腰の痛み・歩行障害にお困りの患者様

手足のしびれや痛み、腰の痛みや歩行障害について、その原因となるものは頭蓋内の病変や末梢神経、代謝障害など多様です。その中でも脊髄、脊椎に原因があるものとしては、

・頸椎症性脊髄症

頸椎の変性により頸髄が通る脊柱管が狭くなり、その結果頸髄が圧迫されることで症状をきたします。つっぱった感じの歩き方（痙性歩行）になったり、首や肩、手の痛み、しびれを伴うこともあります。また、細かい作業が困難となることもあります。

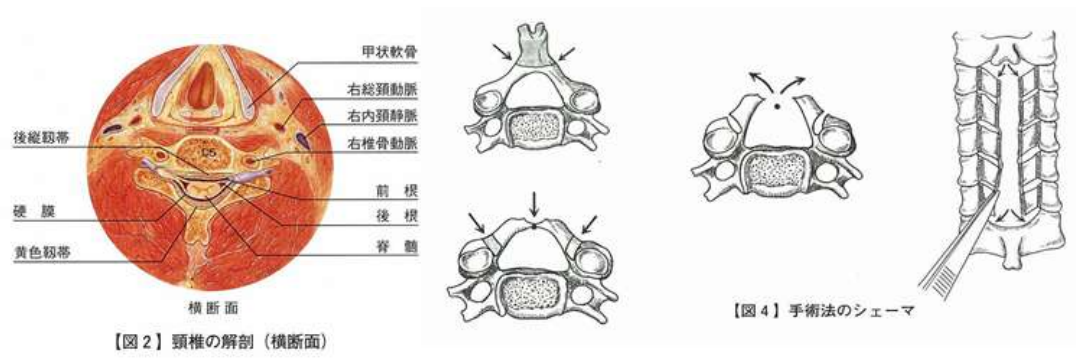
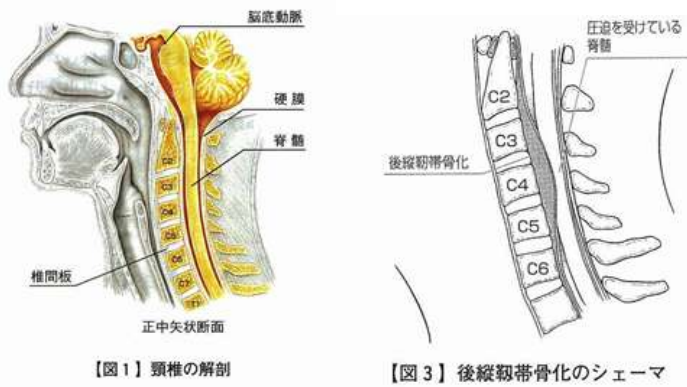
・頸椎椎間板ヘルニア

骨と骨の間でクッションの役割を果たしている椎間板が、正常の位置からはみ出してしまい、頸髄や神経根を圧迫することで症状をきたすことがあり、首や肩の痛みなどの症状を招くことがあります。

・後縦靭帯骨化症

骨と骨をつなぐ靭帯のうち、脊髄のおなか側に存在する靭帯が骨のように固くなって、これが徐々に厚くなっていくことで、脊髄が通る脊柱管が狭くなり、頸髄が圧迫されることで症状をきたします。

それぞれの状況に対して頸のおなか側もしくは背中側から圧迫を除去する手術を行い症状の改善を図ります。

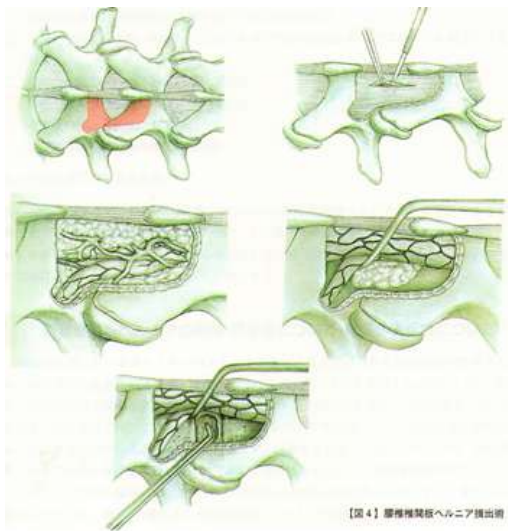
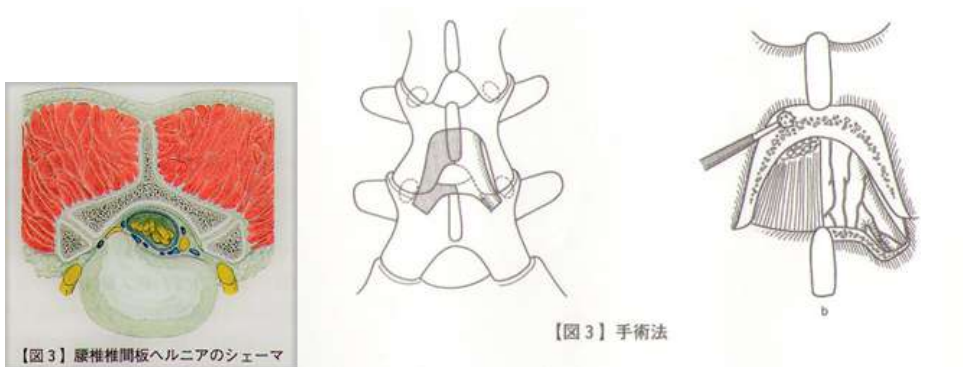
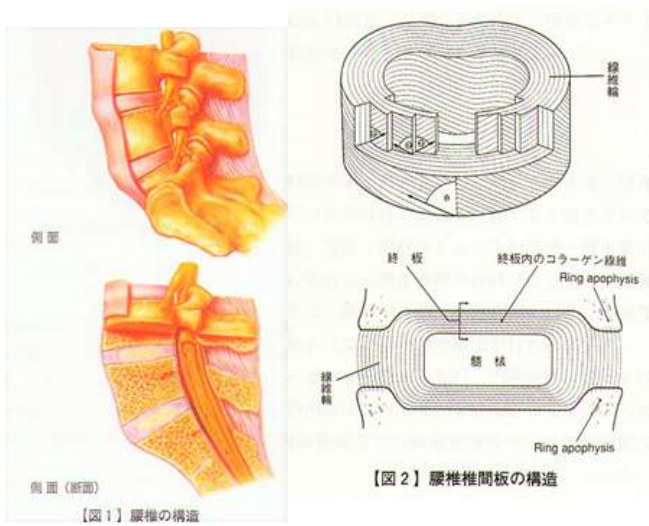


・腰部脊柱管狭窄症

腰椎の変形や変性により、脊髄や神経が通る部分が狭くなり、脊髄、神経を圧迫します。歩いているうちにだんだんと腰や足が痛くなったりしびれたりすることで、歩きづらくなります。少し休憩すればまた歩けるようになります。間欠性跛行（かんけつせいはいこう）といいます。症状が進行してくると、歩行と休憩の間隔がどんどん短くなることがあります。

・腰椎椎間板ヘルニア

腰の骨と骨の間のクッションとなる椎間板が正常な位置から飛び出して脊髄や神経根を圧迫する状態で、場合によっては急激な下肢のしびれや痛み、脱力などの症状が発生することがあります。



脊柱管狭窄症では、脊柱管を拡大させるために椎弓をドリルで削ったり黄色靭帯を切除します。また椎間板ヘルニアでは、さらに飛び出している椎間板を摘出します。